

昭和への改元

大正 15 (1926) 年 12 月 25 日午前 1 時 25 分の大正天皇崩御にともない、皇太子として摂政に就任していた裕仁親王が、午前 3 時 15 分に「剣璽渡御の儀」を執り行って昭和天皇として即位すると、同日に「昭和」への改元詔書が渙発されました。これにより近代最長の 64 年（実質およそ 62 年間）に及ぶ昭和の時代がはじまりました。昭和 2 (1927) 年 2 月 7 日に大正天皇の大喪を執り行くと、昭和 3 年 11 月 10 日、京都御所で即位の礼「紫宸殿ノ儀」に臨まれ、14 日に大嘗祭「大嘗宮ノ儀」を挙行了しました。

昭和天皇は、大日本帝国憲法下では統治権の総覧者としての最後の天皇となり、同時に戦後の日本国憲法による最初の「象徴天皇」となりました。

昭和という時代は、帝国主義国家を目指した「大日本帝国」の終焉と、民主主義国家としての新たな「日本」のはじまりの 2 つの側面を持っていたと言えます。



御大礼記念画報 報知新聞第 18610 号附録

昭和天皇即位に伴う儀式である御大礼について報じた当時の新聞附録記事。
昭和 3 年 11 月に行われた。

渡部分水家資料



昭和天皇・香淳皇后御写真 渡部分水家資料

アルバム

田口松圃家に残されたアルバム。昭和3年に朝香宮殿下が来県した際の掬水館（大曲）の準備の様子などが写されている。

田口松圃家資料



卒業写真

（南檜岡尋常小学校）

のちの南檜岡村・南外村の村長となる渡部任之助が南檜岡尋常小学校を卒業する際の記念写真。昭和3年3月卒業児童の記念写真を11月に撮影している。

渡部分水家資料



大曲駅前での記念撮影
（昭和4年6月2日）

田口松圃家資料



昭和の子どもの遊び
（昭和3年8月）

田口松圃家資料



嶽山と嶽見橋

(昭和3年7月30日)

田口松圃家資料



小雨にけぶる丸子川

(昭和4年7月)

田口松圃家資料



榊田清兵衛の葬儀

亡くなってから5日後に大曲町で行われた町葬の様子。大曲小学校グラウンドに仮設された祭場の前には総勢約1万人の会葬者があり、多くの供花が届いた。供花には、榊田が亡くなる直前に立憲政友会総裁となった犬養毅の名前が見られる。

また、晩年に榊田が総裁に擁立しようとした床次竹二郎は会葬者として参列し、弔辞を読んだ。

(昭和4年)

(田口松圃家資料)



アルバム

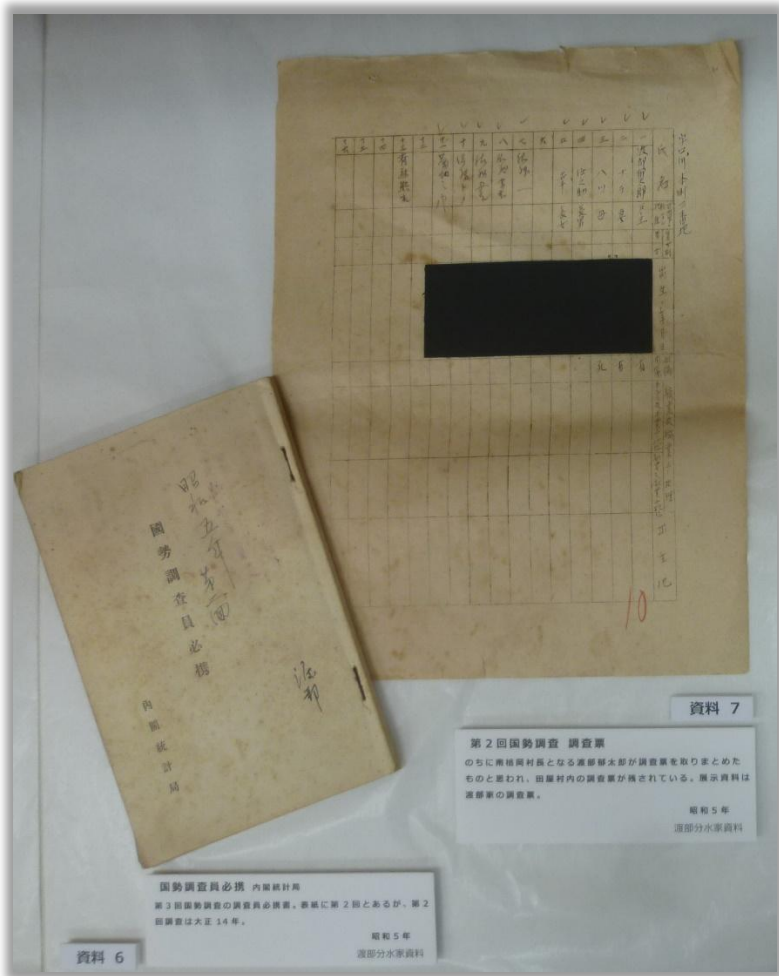
昭和7年に建立された榊田清兵衛翁碑の建立過程や除幕式などを撮影した写真。戦前は何もない広大な土地の一角で、当時は榊田翁が町を見渡せるような場所だった。

田口松圃家資料

第2回国勢調査 調査票 (昭和5年) (右)

のちに南檜岡村長となる渡部郁太郎が調査票を取りまとめたものと思われ、田屋村内の調査票が残されている。展示資料は渡部家の調査票。

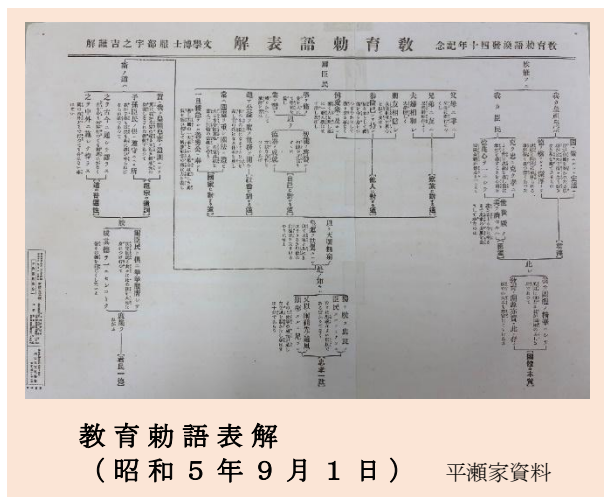
渡部分水家資料



国勢調査員必携 内閣統計局 (昭和5年) (左)

第3回国勢調査の調査員必携書。表紙に第2回とあるが、第2回調査は大正14年。

渡部分水家資料



教育勅語表解

(昭和5年9月1日) 平瀬家資料



南檜岡尋常小学校創立六十周年記念 (昭和14年11月5日)

南檜岡尋常小学校の創立記念写真。校長はじめ教員のほか、村の職員や巡査、村の名士たちが写っている。

渡部分水家資料



満蒙開拓青少年義勇軍（個人所蔵）

太田町史編さん資料

満蒙開拓青少年義勇軍とは

昭和7（1932）年3月1日に満州国が建国されると、日本人農業移民事業が計画されるようになりました。主導していた関東軍が二・二六事件後に権力を強めると、昭和11（1936）年に「満州農業移民百万戸移住計画」を策定します。しかし、翌年日中戦争が勃発したことで、戦争への大量動員により農業移民事業が難しくなっていました。

こうした背景から、昭和12（1937）年11月3日に農村更生協議会名義で「満蒙開拓青少年義勇軍編成に関する建白書」が近衛文麿首相に提出され、11月30日に「満州に対する青少年移民送出に関する件」が閣議決定されました。

昭和13（1938）年1月から募集が開始されましたが、対象は高等小学校高を卒業した数えで16歳から19歳までの青少年たちでした。自由応募が原則とはいえ、実際には各道府県に人数の割当があり、高等小学校の教員たちは卒業生たちに応募するよう呼びかけたと言われています。

各道府県で選抜された青少年たちは、茨城県内原の満蒙開拓青少年義勇軍訓練所で基礎訓練を受けたあと、義勇軍開拓団として満州国に入植しました。